

第4章

エチオピアのコーヒー流通における オークションの役割

政府による競争の場の提供と価格情報の伝達

児玉 由佳

はじめに

コーヒーの生産は、コーヒー・ベルトといわれる赤道を中心とした南北緯度25度の間に位置する国々によって主として担われている（日本コーヒー文化学会 [2001: 89]）。生産国の多くは開発途上国であり、これらの国々にとっては、コーヒー産業は貴重な外貨獲得源である。そのため、コーヒー生産と流通は、植民地政府や独立後の政府によるさまざまな干渉を受けてきた。しかし、1980年代から1990年代にかけて、世界銀行やIMF主導の構造調整政策導入とともに、これらのコーヒー生産国でも流通の自由化が進められてきた（Akiyama [2001]）。

本章でとりあげるエチオピアも例外ではなく、輸出額の5～6割を占めるコーヒーに対して、社会主義政権下（1974～91年）ではさまざまな国家統制が行われてきたが、新政権であるエチオピア人民革命民主戦線（Ethiopian Peoples' Revolutionary Democratic Front: EPRDF）が発足した1991年以降流通は自由化された⁽¹⁾。コーヒー流通に多くの民間商人や輸出商が参入しはじめ、それにともない輸出量・額ともに自由化後は急増している⁽²⁾。しかし、国家によって環境（インフラ・法規制）が整備されないまま経済自由化が進めば、

市場の寡占化、情報の非対称による利益の不均等な配分、情報不足によるリスクの過大評価、法整備の不備による詐欺などの犯罪といった、多くの途上国が現在直面しているさまざまな弊害が生じることになる。

本章では、このような状況のなか、エチオピア国内のコーヒー流通がどのような形で対応しているのかを、オークション制度を中心に分析する。エチオピアのコーヒー流通において、オークションは価格情報伝達の間として、また取引の間として、大きな役割を担っている。ほぼすべての輸出用コーヒーがエチオピア国内で開催されるオークションを経由しており、そこでは、流通の担い手の中心となる卸売商人⁽³⁾と輸出商の交渉が衆人環視のもとで行われる。オークションでの落札価格は翌朝ラジオで放送され、その価格情報は、生産地まで共有される⁽⁴⁾。

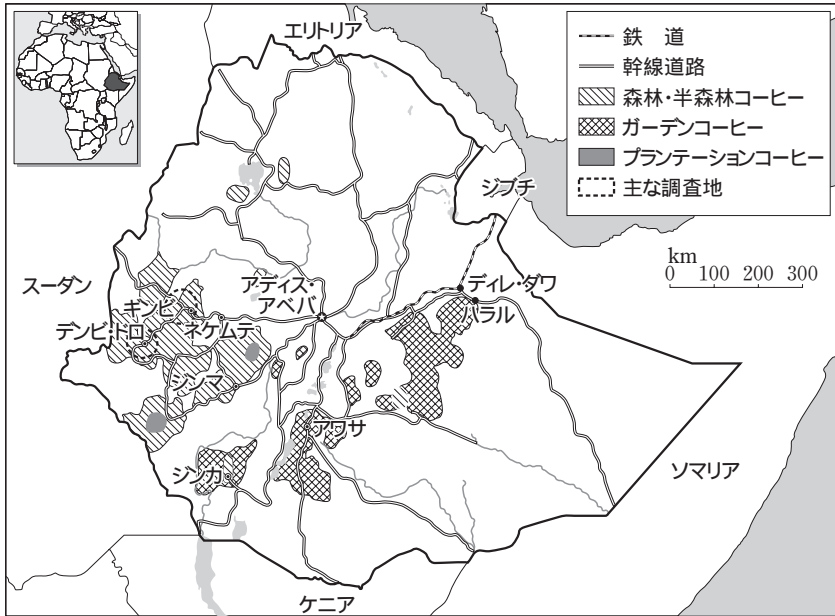
その一方で世界のコーヒー生産国の国内流通制度に目を向けると、オークションを開催している国はごく少数である。主要なコーヒー生産国のなかでは、輸出用コーヒーをすべてオークション経由にしているのがケニア、タンザニアとエチオピア、そして部分的に導入しているのがインド⁽⁵⁾と、4カ国にすぎない⁽⁶⁾（児玉 [2001]）。

本章では、エチオピアのコーヒー流通が世界的に少数派であるオークションを採用している理由について、政治経済、社会的環境、歴史などに留意しつつ分析を試みたい。これによって、今後のさらなる自由化への指針を得ることが本章の目的である。

以下まず第1節で、オークションの市場における一般的な役割を検討し、コーヒーの国際市場との関連について考察する。次に第2節で、エチオピアにおけるコーヒー・オークションの成り立ちを理解したあと、具体的にオークションがどのように行われ、エチオピア独自の文脈でどのような機能を果たしているのかを説明する。第3節では、エチオピアのコーヒー・オークションの現状と問題点を、調査結果および統計資料をもとに分析する。

本章で使われる資料は、主として1998年から2002年の間に筆者が行った調査地での聞き取り調査や参与観察の結果と統計データである。また調査地は、

図1 エチオピアにおける主なコーヒー産地および幹線道路図



(出所) Economist Intelligence Unit [2002], Coffee and Tea Authority [1999] より筆者作成。

(1)オークションが開催される首都アディス・アベバと、(2)主要なコーヒー生産地の一つであるエチオピア西南部の西ワッラガ・ゾーンである (図1)⁽⁷⁾。

第1節 オークションとコーヒー国際市場

1. オークションの役割

オークションの歴史は紀元前にまで遡り、現在もさまざまな商品がオークションによって取引されている。また、ワルラスが均衡価格を実現させる市場経済を「オークション」にたとえているように、オークションは、効率的な価格形成を行える場として考えられてきた (Daloz [1998: 350-351])。一般

的に考えられるオークションの役割として、以下の三つがあげられる⁽⁸⁾。なお、ここでとりあげるオークションでは、オープン・ビッド（希望価格が買い手全員に分かるように示されるもの）を前提としている⁽⁹⁾。

- (1) 売り手と買い手が一堂に会する（交渉場の提供）。
- (2) 買い手の競争によって価格が決定される（効率的な価格形成）。
- (3) 価格形成過程が参加者に共有される（価格情報の共有）。

つまり、オークションの基本的な役割は、取引費用の節約、競争による価格形成、情報の非対称性の解消であるといえる。しかし、インフラや法が整備されていない実際の市場では、談合の問題のように、オークションが否定的に働く場合もあることに留意しなければならない。

2. 国際コーヒー先物市場の役割

コーヒーの国際価格は、ニューヨークのコーヒー・砂糖・ココア取引所（CSCE）とロンドンのロンドン国際金融先物・オプション取引所（LIFFE）におけるオークション売買での価格を基準にして決められる⁽¹⁰⁾（農林中金総合研究所 [2001]）。アラビカ種はCSCE、ロブスタ種はLIFFEが取引の中心となっている⁽¹¹⁾（農林中金総合研究所 [2001]）。飲用されているコーヒーは、大別してアラビカ種とロブスタ種に分けられ、前者はレギュラー・コーヒーに、後者はインスタント・コーヒーおよび増量用の廉価なコーヒー豆として使われることが多い。世界の消費の約3割を占めるアメリカ⁽¹²⁾では、基本的に品質よりも低価格志向が強いため（Dicum and Luttinger [1999: 144]）、価格高騰時にはアラビカ種がロブスタ種に置き換わることも多い。したがって、コーヒー先物市場は、アラビカ種とロブスタ種の生産量がお互いに影響しあって価格が形成されることになる。なお、生産量における割合は、アラビカ種が75%前後、ロブスタ種が25%前後である（黒羽 [1990: 225]）。

取引所での先物価格は、輸出額第1位で世界金額シェアの20%近くを占めているブラジルの作柄によって大きな影響をうける。また近年では、ベトナム

ムにおけるロブスタ種の生産量の大幅増が、コーヒー価格の低下を招いているともいわれている¹³⁾。国際価格に対して影響力を行使できるコーヒー生産国はごく少数である。世界市場の金額シェアで3%に満たないエチオピアのコーヒーも、国際価格への影響力はほとんどない。なお、エチオピアのコーヒー自体はCSCEでは取引されておらず、実際の輸出業者と相手国の輸入業者の間で、CSCEの価格をベースにプレミアもしくはディスカウントの金額が決定される¹⁴⁾。

したがって、コーヒー価格形成の出発点は、ニューヨークやロンドンの先物市場価格であるが、それに加えて、コーヒーの品質や国内の生産事情などが実際の輸出価格に若干の影響を与える。生産者から輸出商までの国内コーヒー流通の担い手全員が、ニューヨークの取引価格やその他さまざまな価格形成要素についての情報を入手できるのであれば、国内に、それらの情報を共有するための場をもう一つ設ける必要はなくなる。ここに、多くの生産国の国内でコーヒー・オークションが開催されない理由の一つがある。理論的には、情報インフラが生産者の段階まで整備された国では、国内でのオークションは不要となる。また、国内流通が生産者から輸出商まで垂直統合されている場合も、輸出商が価格動向を把握していれば、各流通段階のアクターが個々に価格情報入手のために費用を費やす必要はなくなり、オークションは不要ということになる。

第2節 エチオピアにおけるオークションの役割

1. 流通政策の歴史とオークション

前述したとおり、エチオピアの経済にとってコーヒーは非常に重要な意味をもつ。重要な外貨獲得源であるとともに、コーヒー生産に携わる国民の数は、人口6500万人のこの国で、1500万人以上に及ぶという（Coffee and Tea

Authority [1999: 9])。なお、生産者のほとんどが小農であり、プランテーション栽培は一部の国営農場のみで行われている。

また、コーヒーは、貴重な外貨獲得源であるだけでなく、生活に深く根付いた飲料でもある。国内消費量が多く、国内消費は生産量の半分以上を占めている（全日本コーヒー協会 [1985: 182], 兎玉 [2002: 276]）。したがって、コーヒーを国内消費ではなく輸出へと振り向けて外貨を獲得するためには、政府による流通管理を強化する必要があった。

国家のコーヒー経済への本格的な介入は、1952年のコーヒー加工業者への免許制導入など一連の条例制定から始まっている⁽¹⁵⁾。また、コーヒー・オークション制度は、社会主義政権が1974年に成立する直前の1972年7月、ハイレ＝セラシエ帝政末期に始まっている。オークション設立の当初の目的は、コーヒーの品質向上や政府の統制強化のためだけでなく、輸出商のコーヒー買い付けの負担軽減にあった。輸出商が1964年には28だったのが、1969年には45へと急増し、競争が激化するなかで、大手輸出商たちが取引費用軽減のためのオークション設立を政府に要望したのである⁽¹⁶⁾（Love [2000: 15-19]）。

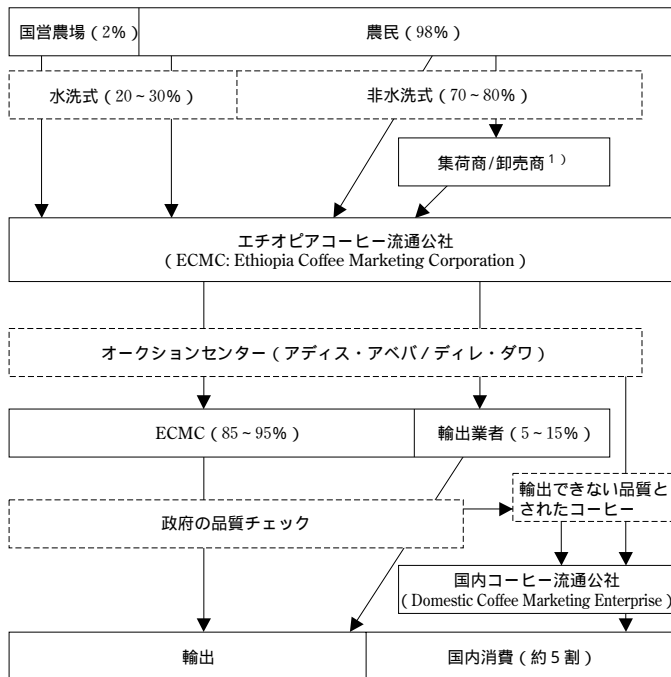
しかし、1974年から1991年の社会主義政権期には、コーヒー流通における民間の活動が制限されることになった。社会主義政権期にもオークションは存続していたが、エチオピア・コーヒー流通公社（Ethiopia Coffee Marketing Corporation: ECMC）が生産地から買い付けたコーヒーを形式上オークションに出し、そこでECMC自身が必要量を確保した後、残りの5～15%を民間の輸出業者がオークションを介して購入していた（Befekadu and Tesfaye [1990: 114-115]）（図2-①参照）。オークション本来の競争的価格形成のための役割は大幅に縮小されていたのである（Kuma [1994: 302-303]）。

1991年以降は、社会主義政権を倒したEPRDF政権が、流通および価格の自由化を進めている⁽¹⁷⁾（図2-②参照）。ECMCも1992/93年度に国内買い付けのための組織であるエチオピア・コーヒー売買公社（Ethiopia Coffee Purchase and Sales Enterprise: ECPSE）と輸出を行うエチオピア・コーヒー輸出公社（Ethiopia Coffee Export Enterprise: ECEE）とに分割された。これらの国営公社

も活動してはいるものの、扱いは民間業者のうちのひとつと変わらず、競争を余儀なくされている。そのため、価格変動に敏感に反応し支払いも迅速な民間商人および民間輸出商との競争において、反応の遅いECPSEやECEEは太刀打ちできない状況にある。生産地においては、ECPSEは民間商人との競争に勝てずに、ほぼ撤退同様の状況にある。また、オークションでもECEEは民間輸出商と同じオークションに参加しているが、自由化以前のように

図2 エチオピアにおけるコーヒー流通の変遷

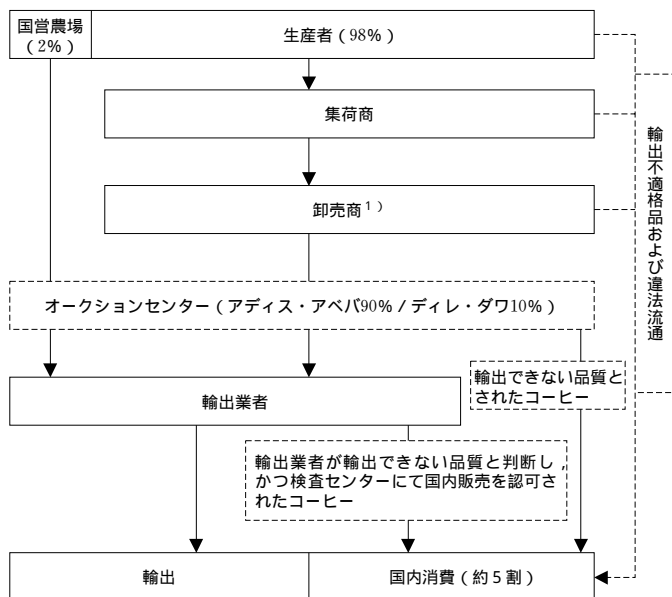
① 社会主義政権期（1974～91年）



(注) 1) 筆者の聞き取りでは、社会主義政権下でも卸売商人が存在していたことが確認された。ただし、社会主義政権期に関する先行文献では、彼らが直接オークションに参加していたという事実は確認されていないため、ここでは集荷商と卸売商人を並記している。

(出所) 全日本コーヒー協会 [1985: 182], Befekadu and Tesfaye [1990: 114-115] および輸出商からの筆者聞き取り (2000年11月) などを基に作成。

② EPRDF政権期（1991年～）



(注) 1) サービス農業協同組合やECPSEも買い手として含まれるが少数である。民間卸売業者の扱う量は、全体の85%を占める。

(出所) 東京穀物商品取引所〔2001: 197〕およびエチオピアのコーヒー関係者への筆者聞き取り（2000年11月および2001年10月）などを基に作成。

コーヒーを確保することができず、その輸出シェアは2000年末現在で1割を占める程度である⁽¹⁸⁾。

2. オークションの一連の流れ⁽¹⁹⁾

オークションの開催者は、コーヒー・紅茶局（Coffee and Tea Authority）である。価格競り上げのオープン・ビッド・オークションであり、参加者全員が落札価格を知ることができる。週5日開催で、月曜日から金曜日までの14時から17時までオークションが行われる。2月から4月の繁忙期には、1日2回オークションが開催される（Coffee and Tea Authority [1999: 23]）。

オークションにかけられるコーヒー豆は、オークション会場に隣接するコーヒー・紅茶品質管理・検査センター（Coffee and Tea Quality Control and Inspection Center, 以下検査センター）によって格付けされる。検査センターはコーヒー・紅茶局管轄下にある。格付けのあと検査センターによって記入された格付け票とサンプルがオークション会場に展示される。輸出商は、これらのサンプルを参考にして、オークションに臨む。

コーヒーは、サンプルに表示された番号順に、オークションにかけられる。オークション参加者は買い取り希望価格を宣言し、競り上げられていく。最終的に最高値を宣言した参加者が、その価格で落札する。落札者は、当該サンプルの商品をすべて買い取らなければならない。また、売り手は値段によっては売却を拒否することもできる。

落札されない豆は、翌日に再びオークションにかけられることになる。番号は新たに検査日の古い順につけなおされ、展示期間の長い順にオークションにかけられる。

落札後は、輸出商と卸売商人が協議のうえ、コーヒーを輸出商の倉庫へと運ぶ。ここで買い取り価格を変更することは物理的に可能ではあるが、落札した時点でオークション会場での落札価格は記録されている。落札価格が卸売商人の課税の参考とされる一方で、輸出商の輸出額は輸出申請時の金額で把握されるため、落札後にその価格を変更しても双方にあまり大きな利点はない²⁰⁾。

この落札結果は、翌朝のラジオ放送を通じて、アムハラ語放送の時間とオロモ語放送の時間にそれぞれの言語を使って発表される。ここで発表される価格は、各地域を代表するコーヒー銘柄の最高落札価格である。

3. オークションの機能

(1) エチオピアにおける情報インフラストラクチャーと価格情報

エチオピアにおける情報インフラストラクチャーは、統計データからも明

らかなように非常に貧しい。情報伝達に必須である識字率は、10歳以上で27%にすぎない（1996年，CSA [1999c: 255]）。遠距離のコミュニケーションに必要な電話も人口1000人当たり3.6台しかない（1999/2000会計年度²¹⁾，CSA [2001: 22, 202]）。移動・運送手段である整備道路の総距離数は1万6000キロメートルであり，エチオピアの面積の30%にすぎない日本が117万キロメートルであることを考えると，道路の整備は非常に遅れている（CSA [2001: 195]，国土交通省道路局ホームページ²²⁾）。また，インターネット使用者も総人口6500万に対し1万4000人と，未だ少数である（2002年8月26日付*Reporter*紙〈アムハラ語版〉，*Press Digest*誌 Vol.9, No.35, 2002年8月29日付より孫引き）。

さらに，情報インフラには，首都とそれ以外の地方で大きな格差がある。まず，就学者および就学経験者の割合は全国平均では22%であるのに対し，アディス・アベバは州別で最も高い83%である（CSA [1999d: 69-70]）。また，総電話数の57%が全人口の4.0%を占めるにすぎないアディス・アベバに集中している（CSA [1998c: 14] [2001: 22, 202]）。インターネットについては，アディス・アベバにある国営の電気通信公社が唯一のプロバイダーであり，接続先はアディス・アベバのみで地方在住者にとっては割高な使用料となる。

このような情報インフラの不備のために，地方に住むコーヒー生産者や仲介の商人たちは，アディス・アベバ在住の輸出商と比較すると価格情報入手の面で不利な状況におかれている。したがって，相対取引は地方在住の商人にとっては不利である。このような状況を考えれば，輸出商と卸売商が一斉に集まって開催されるオークションでの価格情報は，地方商人にとって貴重な情報源となることが分かる。オークションで決定される価格は輸出商間の競争によって形成されたものであり，相対取引よりも適正な価格情報を入手することができる。

また，オークションの落札結果は，地域銘柄ごとの最高落札値を翌朝のラジオ放送を通じて伝達される。コーヒーの落札結果に関するラジオ放送は，最も全国的に流通している言語であるアムハラ語と，コーヒー生産地での主な使用言語であるオロモ語で行われる。これは，オークションに参加できな

い生産者への価格情報提供として重要な役割を果たしていると考えられる⁽²³⁾。ただし、実際の聞き取り調査では、農民から積極的なラジオ情報利用についての回答は得られなかった。それよりも商人側に、ラジオ情報を利用しているとする回答が多かった。彼らは、日々の買い付け価格に、ラジオ放送から得られるオークションの落札結果を反映させている。また、ラジオ放送という独占不可能な情報源によって、農民がオークションでの落札価格をラジオによって知ることができる環境にあるということ自体が、商人が適正価格で取引する動機付けとなっていると考えられる⁽²⁴⁾。これは、農民側からの商人に対する価格に関する批判が特になかったことから裏づけられる。

(2) 取引費用の節約と輸送費用

輸出商にとっても、オークションは取引費用の軽減へとつながる重要な交渉の場となる。輸出商の数は、社会主義体制下でいったん17社まで減少したものの⁽²⁵⁾、1991年以降の経済自由化にともなって登録商社は130社以上にまで増加してきている⁽²⁶⁾ (1999年, Coffee and Tea Authority [1999: 24])。新規参入してきた輸出商は、オークションに参加することによって、取引相手を探し出すための費用を使わずにそれまで全く面識のない地方商人からコーヒーを入手することが可能となる。

オークションに参加する時間は損失となるが、オークション会場がジブチにある輸出港までの経路沿いにあるため、輸送費用に関しては大きな損失とはならない (図1参照)。オークションは、エチオピア西部にあるディレ・ダワと首都アディス・アベバとの2カ所で開催されている⁽²⁷⁾。ディレ・ダワでは、その周辺地域で生産されるハラル・コーヒーを中心に扱っており、アディス・アベバがそれ以外のエチオピア全域で生産されるコーヒーを扱っている。ハラルゲを除く主なコーヒー産地はアディス・アベバよりもさらに内陸部にあるため、アディス・アベバのオークションを経由しても、輸送費用の大きな損失にはならない。ハラル・コーヒー生産地からは、アディス・アベバを経由すると輸出港まで大きな遠回りになることが、ディレ・ダワでの

オークション会場設置の主な理由であると考えられる。したがって、オークションに参加することで、商人側も総体的には費用削減することができ、オークションに参加するインセンティブとなる。

(3) 参加者の資格

オークションには、卸売商人（売り手）、または輸出商（買い手）として正式に登録された者しか参加できない。そのため、オークション参加者の身分は公的に把握されているので、単発的な相対取引よりも取引相手に対する信頼性が高い。また、オークションにおいて、売り手と買い手を兼ねることは禁止されている。

ただし、卸売商人と輸出商は、どちらも国内投資家⁽²⁸⁾に限られている（Proclamation No.35/1998）が、それ以外の資格獲得の規制は緩やかである。卸売商人の資格は、5000ブル（約590ドル）以上を資本金として登録すれば認可される（児玉 [2001: 284]）。また、輸出商についても、必要な書類を提出さえすれば特にその後の規制はない（Ethiopia Chamber of Commerce [1998]）。このような緩やかな規制のために、輸出商による詐欺事件が何件か発生している。コーヒーの価格が1997年以降低迷しているなかで、輸出商が、高値で落札するのと引き替えに卸売商人に代金の後払いを要求してコーヒーを納入させたあと、そのまま失踪するというものである⁽²⁹⁾。

このような事件から分かるのは、自由化によるオークション参加者の急増のために、参加者の資格について十分に吟味できず、同時に違反者に法的制裁を加えられないという、政府の能力不足である。1973年よりコーヒー輸出商を経営しているある輸出商（イギリス人）は、以前はコーヒー輸出は「きれいな仕事」（“clean business”）であり、輸出商が卸売商人を騙すようなことをしないことが誇りであったのに、参入自由化によってモラルが低下してきていることを嘆いていた⁽³⁰⁾。このような状況から、経済自由化にともなう参入自由化によって、コーヒー流通が少数の顔の分かる個人同士の取引ではなく、より匿名性の高いものへと変貌してきたことも分かる。

(4) 品質および生産地の情報

① 品質の情報

国際的な嗜好品であるコーヒーの品質基準は、輸出にあたって非常に厳しいものとなる。たとえば、品質管理の進んでいなかった1956/57コーヒー年度⁽³¹⁾に、エチオピアのコーヒーは低品質を理由にアメリカから大量の返品を経験している (Love [2000])。その一方で、品質が向上し、一つのブランドとしての地位を確立すれば、先物取引の標準価格よりもプレミアムを得ることができる。たとえばタンザニアのキリマンジャロ・コーヒーは、高品質豆として差別化されており、グレードの高いものはニューヨークの先物市場の標準価格に対して1割程度のプレミアムを獲得できる場合がある (辻村 [2001])。公的機関による品質の統一基準は、エチオピアのコーヒーの品質が国際的な評価を得るためには不可欠である。また、このような統一基準は、新規参入が増えている輸出商にとっても、コーヒーの品質を評価するにあたって自らの乏しい経験や知識に頼る必要がないという利点がある。

エチオピアでは、前述のコーヒー・紅茶品質管理・検査センターがカップ・テイスティングも含めた厳密な検査を行う⁽³²⁾。ここで格付けされたものがオークションにかけられる。オークションのコーヒー豆の展示エリアにサンプルとともに、この検査センターの格付けの結果も提供される⁽³³⁾。したがって、輸出商はオークションに参加することによって、公的機関が保証する品質情報を得ることができる。オークションを介さず、検査センターが品質検査証を各商人に発行することも可能ではあるが、検査証の偽造および商品のすり替えの問題が生じる。オークションで品質検査結果をサンプルに添付して展示することで、オークション開催者がこれらの問題を防ぐための役割を果たしているのである。

なお、乾燥方法によってコーヒー豆は非水洗式加工か水洗式加工かに分類される⁽³⁴⁾。この違いによっても品質・風味に大きな違いが生まれるため、品質評価も非水洗式と水洗式で区別しており、オークションも時間帯を分けて、

まず非水洗式コーヒーのオークションを行った後に水洗式コーヒーのオークションが行われている。

② 生産地の情報

エチオピアのコーヒー産地は、南部の広範囲に広がっており、その土地の気候や植生によって、栽培方法やコーヒーの風味が異なり、ひいては価格づきも異なってくる³⁵⁾ (Coffee and Tea Authority [1999: 30-31])。したがって、品質情報とは別に、生産地についての正確な情報が重要となる。

コーヒーの栽培方法は大きく分けて、ガーデン栽培（家の周辺の畑での栽培。南部・東部に多い）、森林・半森林栽培（森林の木の陰にコーヒーを植える。西部、南西部に多い）、プランテーション栽培（政府経営が中心）の三つがある（図1参照）。このような栽培方法の違いに加えて、土壌の違いも風味に影響をもたらす。

輸出に際しては上記のような条件やさらには加工方法などを勘案して銘柄名がつけられるが、主なものとしては、ジンマ、レケムテ³⁶⁾、シダモ、リム、イルガ・チャフェ、ハラルなどがある。後掲の表1にあるように、この銘柄によって買い取り価格が異なる。前述の検査センターの格付け票にも生産地が記入してある。卸売商人が商業許可登録地とは異なる地域からのコーヒーを運び込むことは稀であり、通常は、商人の登録地域がコーヒーの生産地であるとみなされる。また、検査センターの検査担当官は、テイスティングによってコーヒー生産地を見分けられるということなので、生産地を詐称することは困難である³⁷⁾。このような状況を考えると、生産地の情報を入手するためにも、品質評価の専門家による鑑定が重要となり、オークション参加へのインセンティブとなる。

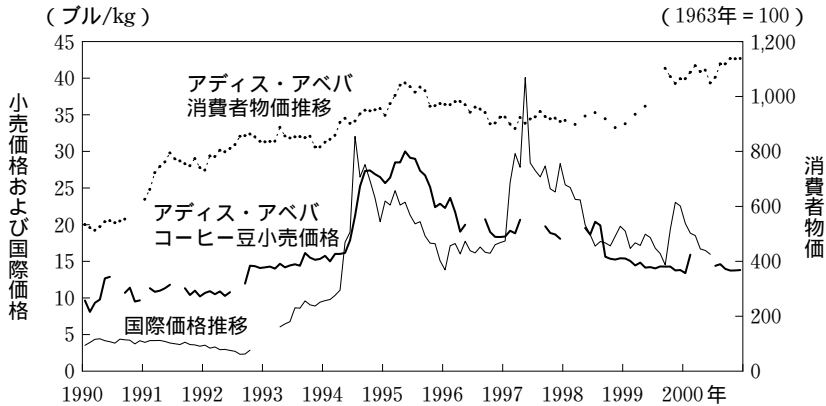
(5) 国家の統制目的としてのオークション

オークション制度の目的には、国家の流通管理を容易にするためというものもある。具体的には、外貨獲得のための輸出用豆の確保と、コーヒーから生まれる利益に対する確実な徴税の二つがあげられる。

前者については、エチオピアのコーヒーは、国内消費が生産量の半分以上を占めているため、輸出のためのコーヒーを確保するためにも政府による流通管理を強化する必要がある。法律上は、国内市場で販売できる豆は出荷地もしくはオークションの品質検査、輸出商の最終検査において不適格とされた豆のみとなっており、生産地で不適格品となったコーヒー豆以外は、オークションを経由することになる⁽³⁸⁾。ただし、図3が示すように、国際価格下落時には国内価格のほうが輸出価格を上回ることもあり、このような場合は上記の規制は機能せず、多くのコーヒーが不正規なルートを通して国内市場へと流通する。オークション向けには卸売商が脱穀作業を行わなければならないところを、単価を上げるために生産者自身が石などによる原始的な脱穀を行って集荷商に売り、その後国内へと流通することになる。

後者の徴税については、コーヒー取引が公の場であるオークションで行われることで、輸出商と商人の利益を正確に把握でき、より正確な徴税ができるという利点がある。特に国内商人に対する売り上げ税は、政府の税収の内訳からみても大きな比重を占めている。コーヒー商人のみでのデータはないが、商人全般がもたらす税収は国庫収入のなかでは輸入税に次ぐ重要な地位を占めている。そのなかでも売り上げの把握が容易な輸出産品の貢献度が高いと推測できる。筆者の聞き取り調査でも、コーヒー商人たちの不満は高い税金に向けられていた⁽³⁹⁾。その一方で、輸出税については1992年12月以降はコーヒーのみに課されている（通常は6.5%）（Proclamation No.99/1998）ものの、国庫収入におけるコーヒー輸出税からの収入の割合は、1991/92会計年度から2000/2001会計年度の期間で税収の0.5%から5.2%の範囲にすぎない（NBE [1998], CSA [2000], NBEホームページ⁽⁴⁰⁾）。さらに、2001年後半からは、コーヒーの輸出価格が、1ポンド当たり水洗式加工で105セント、非水洗式加工で70セントを下回ったときには輸出税が免除されることになった⁽⁴¹⁾（2001年5月8日付*Reuters*報道、2001年5月14日付*Seven Days Update*誌Vol.8, No.9より孫引き）。この政府方針からも、政府が輸出税をあまり重要視していないことが分かる。

図3 アディス・アベバにおけるコーヒー小売価格と消費者物価および
コーヒー国際価格の変動



(注) (1) 国際価格は、先物価格（期近）から、各月の15日前後のものを使用した。ブル/kgの単位にあわせるために、NBE [1999: 94] の為替レート表を基に出所のUSセント表示をブルに換算し、ポンド表示は1ポンド=454gとして換算した。ただし、1992年10月までは1ドル=2.07ブルの固定レートである（Equar [1999: 6]）。

(2) 1998年以降の物価上昇率のデータは、それまでの1963年=100ではなく、1995/96会計年度=100のものしか入手できなかった。そのため、便宜上、この二つの基準年を使った物価情報率のデータが両方ある1996年9月から1997年12月のデータを基にして比率を計算し、1998年1月以降の物価上昇率を計算した。

(出所) CSA [1991] [1993] [1994] [1996a-e] [1997a,b] [1998a,b] [1999a,b] [2000a-c] [2001], NBE [1998] [1999], ニューヨーク先物取引市場ホームページ (<http://www.nybot.com> 2002年10月22日アクセス) より筆者作成。

第3節 エチオピアのコーヒー・オークションの現状と問題点

前節では、エチオピアにおいてコーヒー・オークションが存続している理由について、さまざまな角度から検討した。この節では、1999年7月から2000年6月までの1年間のオークションでの落札価格のデータを基に、オークションがどのように価格形成機能を果たしているのかを分析する。

表1 エチオピアにおける月別非水洗式コーヒーオークション落札価格および輸出契約価格 (1999年7月～2000年7月)
(単位:ブル/kg)

	アディス・アベバ オークション				ディレ・ダワ オークション			
	オロミヤ州南部 シダモ地方 ²⁾		オロミヤ州西部 西ワツラガ地方		オロミヤ州南部 ジンマ地方		ハララ地方	
	落札価格	輸出価格 ³⁾	落札価格	輸出価格	落札価格	輸出価格	落札価格	輸出価格
	シダマ	シダモ 4 ⁴⁾	西ワツラガ	レケムト 5 ⁵⁾	ジンマ	ジンマ 5	西ハララゲ	東ハララゲ
1999年7月8日～8月6日 ¹⁾	11.97	16.10	13.14	18.42	12.83	14.13	14.28	17.52
8月7日～9月8日	12.36	15.20	12.85	15.74	12.16	13.23	14.07	18.17
9月11日～10月10日	11.39	14.66	11.66	14.49	11.42	12.52	14.82	18.41
10月11日～11月9日	13.13	16.64	13.48	16.64	13.42	14.49	15.70	18.91
11月10日～12月9日	14.42	21.48	n.a.	20.76	14.25	18.26	16.78	19.88
12月10日～2000年1月8日	13.43	20.60	13.96	21.31	13.95	18.09	16.25	19.12
1月9日～2月7日	12.91	19.36	12.62	19.54	13.06	17.57	15.09	18.70
2月8日～3月9日	11.00	18.13	11.50	17.59	12.11	16.51	14.93	18.70
3月10日～4月8日	11.37	17.08	11.21	17.62	11.72	14.92	16.16	19.14
4月9日～5月8日	10.06	16.93	11.06	16.57	12.02	13.87	17.64	19.84
5月9日～6月7日	11.52	16.07	11.28	18.60	11.97	14.09	18.78	21.03
6月8日～7月7日	10.84	14.30	11.04	14.12	11.81	12.49	18.28	21.15

(注) 1) エチオピアの会計年度は7月8日に始まる。

2) エチオピアのコーヒー豆は、地域ごとに銘柄をもつが、必ずしも厳密にその行政区画で生産されたことを意味しないので、ここでは地方とした。

3) ポンド表示は1ポンド=454gとして換算。出所のUSセント表示はブルに換算(為替レートは、エチオピア国立銀行ホームページを参照した)。

4) 落札価格は、その地域(ゾーン)からオークション会場に納入されたコーヒー豆の平均落札価格であり、輸出価格は、一つのコーヒー銘柄のあるグレードの平均輸出価格であるため、厳密には対応しない。たとえば、シダモ4とは、シダマで生産されたコーヒーのうち、グレード4のものの平均価格である。

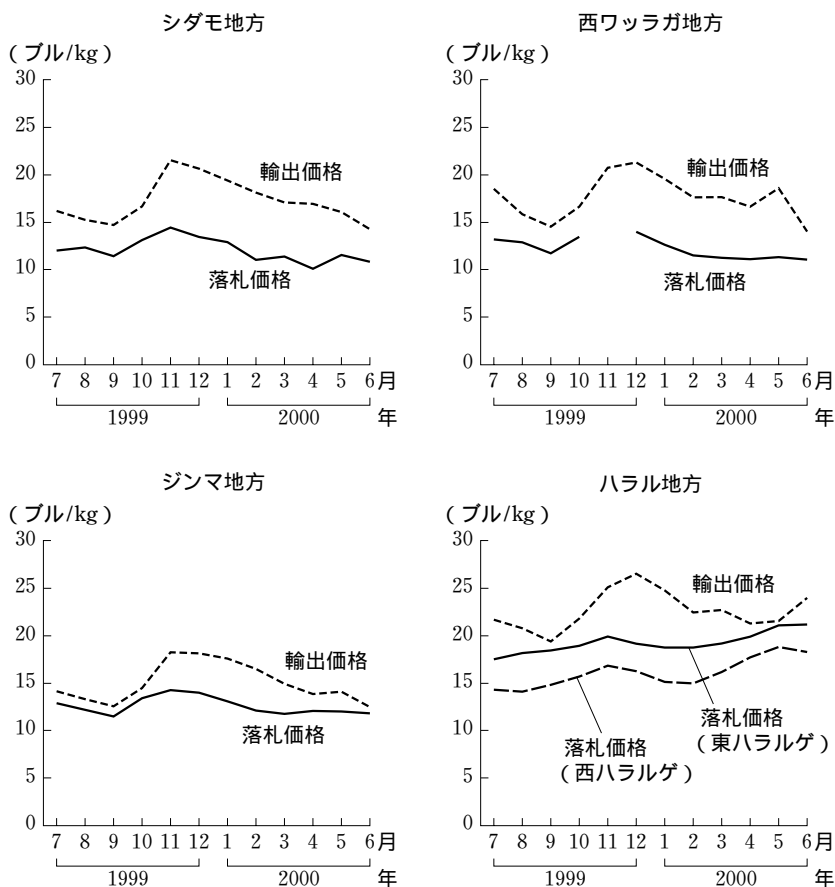
5) レケムトは、西ワツラガを中心に生産されるコーヒーの総称である。

(出所) Coffee and Tea Authority [2000]. エチオピア国立銀行ホームページ (http://www.telecom.net.et/~nbe/NBEPublication/QIV16new_index.htm 2002年10月10日アクセス)。

1. オークションにおける価格形成

表1は、1999年7月8日から2000年7月7日の1年間のオークション落札価格と、輸出契約価格の月別平均の推移であり、グラフで表したのが図4である。また、図5は、同時期のCSCEでの国際価格の推移を表したものである。

図4 コーヒー輸出価格とオークション落札価格の推移

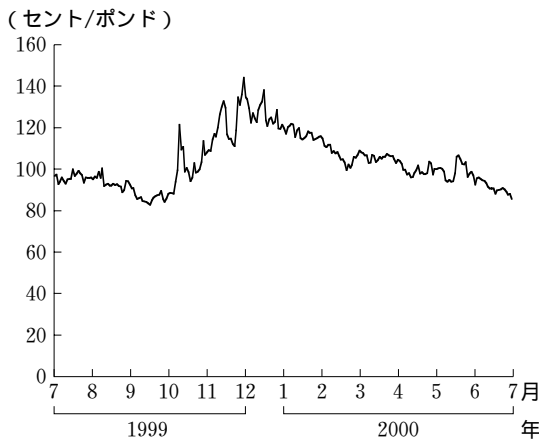


(出所) Coffee and Tea Authority [2000].

国際価格が、オークションの落札価格変動の主な要因であることが、ここから分かる⁽⁴²⁾。ただし、それ以外にもさまざまな要因が考えられる⁽⁴³⁾。

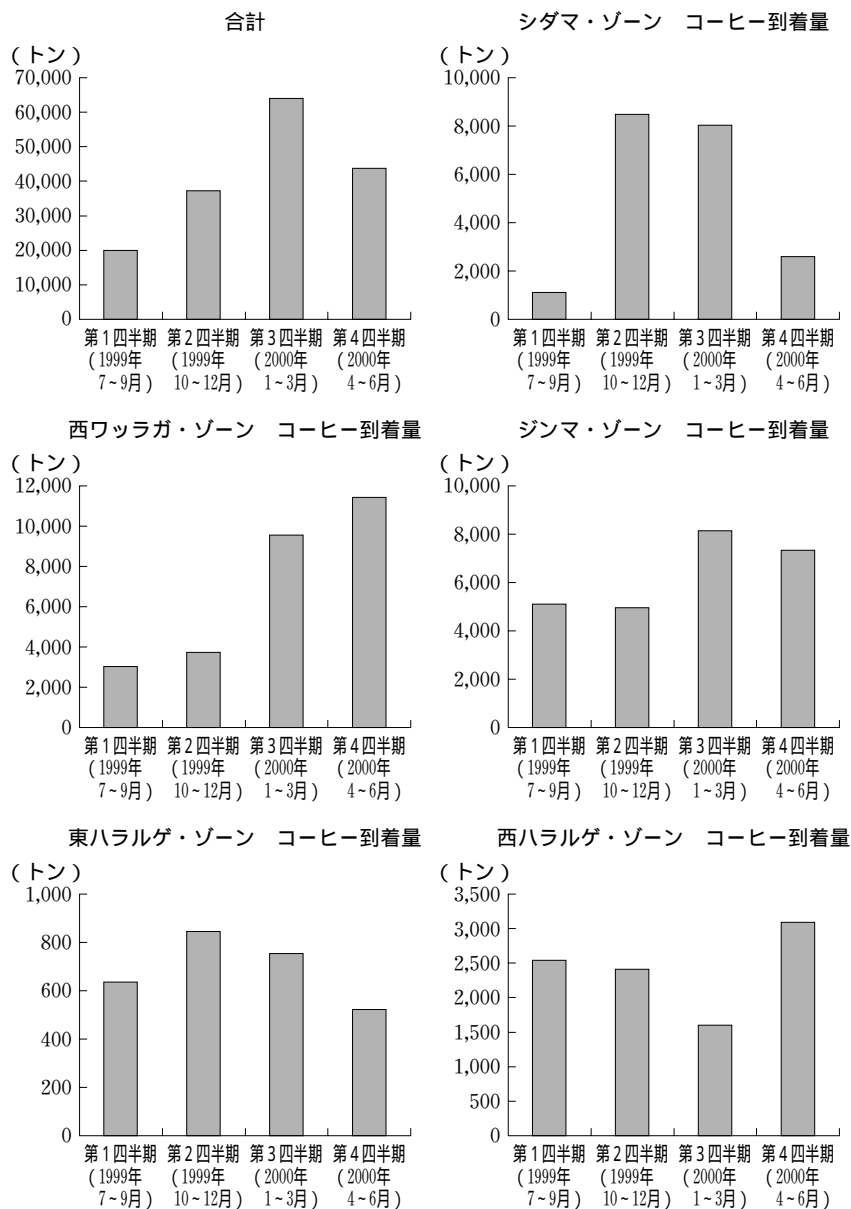
第1に、エチオピアのコーヒーに対する需給のバランスによって、多少の変動があることがあげられる。消費国の需要はコンスタントにある一方で、図6が示すように、コーヒーのオークションへの供給量は時期および生産地によって大きな変動がある。これは、地域ごとの気候的な違い、栽培方法の違いなどによって収穫時期が異なるだけではなく、農民と商人の価格変動への思惑が働いていることも、供給量変動の主要な要因の一つである。コーヒーの収穫時期は、8月から1月である（Coffee and Tea Authority [1999]）が、収穫後に乾燥させた豆は、約1年間は大きな品質へのダメージもなく農民によって保存可能である。したがって、農民側は、日々の生活費を確保するために最低限の量のコーヒーを売却するものの、それ以上の量については、そのときの価格推移をもとに判断する。ただし、9月以降は新たに収穫されたコーヒー豆が出回るため、前年度のコーヒーはほとんど売買対象とはならない。また、農民には長期的な国際市場の動向についての情報はなく、短期的

図5 ニューヨーク先物市場価格推移(Coffee “C” 期近)



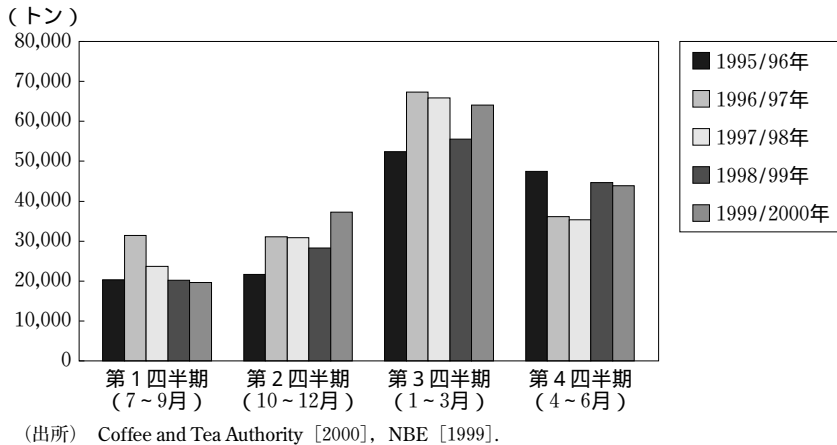
(出所) ニューヨーク商品取引所ホームページ (<http://www.nybot.com/> 2002年10月23日アクセス)。

図6 ゾーン別オークションへのコーヒー到着量の推移



(出所) Coffee and Tea Authority [2000].

図7 エチオピアにおけるコーヒー・オークション到着量（1995/96～1999/2000年）



な価格の変動（「前日より高いから」といった理由）に反応して、コーヒー豆を市場に出す。集荷商が生豆を買い取ってから、卸売商人が脱殻して、アデリス・アベバまで運送し、それから品質検査を通過してオークションに参加するまでには、さらに1カ月はかかることを考えると、オークション出品時の納入量と落札価格にずれが生じることになる。

その一方で、国際価格の変動に対する輸出商側の予測も落札価格に影響する。国際価格が一時的に上昇したとしても、その後の下落が容易に推測できれば、オークションでの落札価格が国際価格の急騰にあわせて大きく上昇することはない。図5にある1999年後半の国際価格の上昇は、ブラジルの旱魃による減産予測⁴⁴⁾にもとづいた一時的な上昇にすぎず、2000年1月以降は他生産国による輸出によって価格は低迷した。このような場合、国際価格下落の可能性も高いうえに、過去5年間のオークション到着量の推移から（図7）、その後オークションへのコーヒーの供給が増えることは容易に予測できるため、スポット的な価格上昇に対して敏感に反応しなかったと考えられる。

オークションを介した卸売商と輸出商との間の交渉過程で、これらの情報が各々の重要度に合わせて適切に取り込まれて、価格は決定されていく。第

2節で検討したように、エチオピアでのコーヒー流通を取り巻く情報インフラの貧困さを考慮に入れると、これらの要素をすべて反映させて価格形成できる制度としては、オークションが適しているといえる。

2. コーヒー流通における垂直統合をめぐる議論⁴⁵⁾

ここまでの議論では、現在のエチオピアのコーヒー流通をとりまく貧しいインフラ環境のなかで、それを補完するためにオークションがどのように機能しているのかを検討した。本項では、ほかの制度的対応によって、オークションのもつ価格形成能力以上のものを獲得することができるのかを検討したい。オークションの利点は、情報の非対称性の問題を抱える相対取引と比べて、より多くのアクターが、より多くの情報を取り込んで価格を決定できることにある。それでは、情報の非対称性を解決するためのもう一つの方法である流通の垂直統合は、エチオピアではどのような機能を果たすことができるのであろうか。

開発途上国における流通の垂直統合を考える場合、代表的なものは政府によるものであろう。この場合、独占を伴った流通の国営化という形をとるのが大きな特徴である。流通の国営化は、本来の目的が生産者保護であったにもかかわらず、独占的な性格ゆえに効率改善へのインセンティブが生まれず流通費用が増大し、生産者価格を不当に圧迫するものとなっていたというのが一般的な評価である⁴⁶⁾。

ここでは、市場経済のなかで、民間企業が垂直統合を選択する場合を検討する。エチオピアのコーヒー農民の大多数が小農であることに鑑み、農民から買い付けて輸出するまでの経路を垂直統合する場合を考える。

垂直統合の利点は、情報が一元化されて非対称性の問題がなくなることと、各段階で行われていた交渉が不要となり取引費用および時間が節約できることにある。その一方で、これまで各アクターに分散していた国際価格の変動リスクは、単独のアクターがすべて吸収しなければならない。

オークションの形骸化をもたらす危険のある卸売商と輸出商の兼任は、前述したとおり、エチオピアのコーヒー流通では禁止されているが、実際には、数名の輸出商が近親者を卸売商にして優先的に彼らからコーヒーを買い取るというかたちで、垂直統合は存在している。しかし、それらの数は少数にとどまっており、特に大きな問題とはなっていない⁴⁷⁾。規制はあるものの実質的には可能である垂直統合が、実際にはエチオピアではあまり行われていないということになる。

輸出商が垂直統合を行う場合、オークションを通して買い付けていた各生産地のコーヒーを直接購入するために生産地レベルまでその活動範囲を広げなければならない。そのための情報網の整備や人的ネットワークの構築は不可欠であり、初期費用は垂直統合以前よりも高くなる。

卸売商人が垂直統合を行って輸出まで進出する場合は、国際価格の動向を得るための情報設備（インターネットや電話・ファックスなど）を揃え、先物価格の知識を蓄積しなければならない。また、費用回収のために事業を拡大する場合は、他の生産地のコーヒー豆の品揃えが必須となり、輸出商と同様他の生産地へと活動範囲を広げなければならない。生産地に居住する小農が輸出に参入する場合も状況は同じであり、輸出業にまで小農が進出するためには、国際価格の動向を得るための情報設備と知識、生産地から輸出港までの輸送費用をまかなうための初期費用が必要となる。

エチオピアのコーヒー市場を取り巻く現在の状況を考えると、今の時点では、垂直統合をもたらす利益がオークションのそれを超えるものではないことが、垂直統合を選択するアクターが少数派にすぎない理由であると考えられる（二つの比較については表2参照）。特に、国際価格の激しい変動と高い初期費用は、垂直統合へのディスインセンティブとなる。17年間続いた社会主義政権によって民間の商業活動が抑制されてきたために、これらの費用を負担できるだけの民間資本がエチオピアで育っていないということも、垂直統合の進まないもう一つの理由であろう。また、今後流通を垂直統合できるアクターが増えたとしても、多数のアクターが生産地で競争に参加できる環

表2 オークションと垂直統合の比較

	垂直統合	オークション
[垂直統合の利点]		
情報流通	内部化	外部化
取引費用	小	大
流通速度	速	遅
[垂直統合の不利な点]		
初期費用	高	低
情報設備	高	低
人的ネットワーク構築	高	低
国際価格変動による影響	大	小

(出所) 筆者作成。

境が前提となる。したがって、寡占化を防ぎ、資本力の小さいアクターがコーヒー流通に参入できるようにするためにも、オークションは不可欠である⁽⁴⁸⁾。

むすびにかえて

本章では、エチオピアにおけるコーヒー流通の現状を分析するにあたり、オークション制度をとりあげた。コーヒー生産国のなかで、オークション制度を採用している国は少数にすぎない。しかし、現在のエチオピアを取り巻く環境を考えると、情報インフラや品質管理などの問題を解消するためには、エチオピアにおいては有効な制度であることが分かる。オークションに参加することによって、相対取引では得ることのできない他者の交渉情報を大きな費用をかけずに入手することができることは、情報インフラが整っていないエチオピアでは重要な価値をもつ。また公的機関による統一基準にもとづいた商品情報を同時に提供することによって、より適切な価格を決定することができる。このようなオークションの機能によって、コーヒー流通への参入は、特別な経験や知識がなくとも可能となり、市場をより活発にそして競

争的にすることができる。

ただし、これはエチオピアの現在の状況において最善と考えられるのであって、通信網などの情報インフラの整備が整った国では、いたずらに取引費用を増やす制度となる。エチオピアにおいても、オークションによって生じる費用が、そのもたらす利益を上回るようになれば、オークションの役割は終わる。制度は、そのとりまく状況に合わせて柔軟に変化していくものでなければならない。

〔注〕

- (1) 社会主義政権は、1990年3月に経済改革計画(The 1990 Economic Reform Programme)を公布し、経済自由化への方針を示していたが、その翌年、成果を上げる前に政権自体が崩壊した。
- (2) 入手可能な最新5年間のデータである1994/95年から1998/99年の年平均と、政権交代の混乱時期(1990/91～1992/93年)を除いた社会政権期末5年間(1985/86～1989/90年)の年平均とを比較すると、輸出量で32%増(10万5852トン)、輸出額で307%増(21億6654万ブル、1998/99年の平均為替レート、1ドル=7.51ブルで換算すると約2億8849ドル)となっている(NBE [1999])。ただし、この間為替レートの切り下げおよび自由化が行われていることも輸出額増に大きく寄与している。社会主義政権期は固定レートで1ドル=2.07ブルだったが、その後自由化され、2002年10月18日現在で1ドル=8.51ブルとなっている。
- (3) 本章で商人という場合は、原則として卸売商人を指す。集荷商の役割は、卸売商人から前金とコミッションをもらい、コーヒー豆を生産者から集荷するエージェントにすぎないからである。
- (4) この放送自体は、社会主義政権期に始まっている。社会主義時代に放送されていたのは統制価格であり、価格自由化後は、オークションでの最高落札価格が放送されている(2002年10月エチオピア人からの筆者聞き取り)。
- (5) インドのオークション制度は、売り手への支払いをオークション主催者であるコーヒー・ボード(Coffee Board)が行っているが、その支払いの遅延を嫌ってオークション参加者の数は減少してきている(Akiyama [2001: 90-91])。
- (6) 世界第1の生産国であるブラジル政府は、1997年後半以降2002年まで続いていたコーヒー国際価格の低落傾向のなかで、価格管理のために2種類のオークションを何度か開催した。一つは、買い上げのためのプット・オプション(ここではコーヒー豆をある金額で政府に売る権利)のオークションであり、もう

- 一つは、買い取った在庫を売却するためのオークションである。これらのオークションは緊急避難的に行ったものであり、国際価格が上昇してきた2002年11月現在では行われていない(2002年11月22日コーヒー輸入商社より聞き取り)。
- (7) なお、今回の調査にあたって、石光商事、日本コーヒー協会、ミハト珈琲商会の皆様から、日本のコーヒー取引について多くのご教示をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。
- (8) 筆者の見解に加えて、Daloz [1998] を参考にした。
- (9) オークションには、以下のようにいくつかの種類がある。どのオークションが最も効率がいいのかという問題については、ゲーム論の観点からさまざまな検討がなされている(西村 [2002], 梶井・松井 [2000: 100])。
- [オープン・ビッド (Open Bid: 買い手全員に値段が分かる)]
- イングリッシュ・オークション (English Auction): 競り上げ
- ダッチ・オークション (Dutch Auction): 競り下げ
- [シールド・ビッド (Sealed Bid: 入札。競り値が最後まで公開されない)]
- ファースト・プライス・オークション (First Price: 最高の買値をつけた人が落札)
- セカンド・プライス・オークション (Second Price: 最高価格者が競り落とすが、価格は2番目のもの)
- (10) 新たな方向として、特にスペシャリティ・コーヒーを対象に、インターネットによるオークションを行い、品質および価格の差別化を図るという試みが、ブラジルやグアテマラなどで始まっている(『全協海外情報』No.144, 2002年5月16日)。
- (11) 日本でも1998年6月16日より東京商品穀物取引所でコーヒー生豆の先物取引が行われている。しかし、たとえばアラビカ種については、ニューヨーク先物価格と連動しているため存在意義があまりないことと、新しい市場のためコーヒー自体の品質と市場自体の安定性などについて不安もまだ大きいことから、大手企業のなかには利用していないところもある(和城 [1999: 35])。
- (12) 全日本コーヒー協会から入手した未刊行統計資料からのデータ。
- (13) 「コーヒー生豆 国際価格下げ止まらず 26年ぶり安値うかがう」(『日本経済新聞』2001年9月6日付)より。
- (14) 先物市場価格に連動することが農民に資するのかは別の議論である(辻村 [2001])。先物市場の価格変動自体は投機的な意図が入り込むため、供給に対する価格弾力性が不自然なまでに大きくなっている。この問題についての分析は、本章の目的を超えるものとなるため、別稿にゆずりたい。
- (15) Proclamation No.121/52, 161/52など。
- (16) その一方で、国内商人は、国家からの管理や規制が増加してきた経緯から、さらなる管理制度ともいえるオークション導入に難色を示していた。そのため、

コーヒー・ボードと輸出商連盟がオークション導入と同時に最低買い付け価格を設定することで、商人側の譲歩を引き出すことになった（Love [2000: 17]）。

- (17) ただし、完全に規制が撤廃されたわけではない。たとえば、輸出最低価格の設定（2002年11月13日付で撤廃）は残されていた。また、輸出商の先物取引の期間についても制限があり、大量の取引以外は1年先の先物取引などは認められていない（2002年11月22日の日本の輸入商社からの聞き取りより）。
- (18) 2000年11月の輸出商からの筆者聞き取り。
- (19) ここでは、筆者が訪問したアディス・アベバでのオークションを説明する。
- (20) 価格を変更する場合、二つのケースが考えられる。①落札価格より高く買い取る：商人は課税額が減少するが、輸出商の利益は書類上は高くなるため、輸出商の税金は高くなる。②落札価格より低く買い取る：輸出商側は利益が書類上は低くなって課税額が減少するが、商人への課税額が増加する。
- (21) エチオピアの会計年度は、7月8日に始まり7月7日に終わる。
- (22) 『「日本の道路」暮らしと産業の道づくり』（<http://www.mlit.go.jp/road/index.html>）（2002年10月10日アクセス）。
- (23) ニューヨークの先物市場価格の放送よりも、国内オークションの落札価格のほうが、各地域のコーヒー銘柄ごとの価格である分、より詳細な価格情報を提供することができる。ニューヨークの先物市場では標準品（Coffee “C”）の価格が決まるだけであり、エチオピアの詳細なコーヒー銘柄ごとの具体的な価格情報を得ることはできない。
- (24) 2000年11月および2002年2月の西ワッラガ・ゾーンでの筆者聞き取り。
- (25) 2000年11月の輸出商からの聞き取りによる。
- (26) ただし、実際に活動していると目される輸出商の数は、1997年以降続いているコーヒー国際価格の下落のために大きく減少している。2002年2月の筆者の輸出商からの聞き取りでは、実際に活動している輸出商の数は70～80ぐらいであった。
- (27) 取り扱い量は、アディス・アベバのオークションが90%を占めている（Africast.com HPより。<http://www.africast.com/article.php?newsID=20813&strCountry=Ethiopia>, 2002年10月10日アクセス）。
- (28) 「国内投資家」の法律上の定義は、「エチオピア国籍をもつ者またはエチオピアに永住している外国籍の者で、政府や公社を含めた投資を行っている者」とされている（投資法1996年第37条）。
- (29) 2002年2月の西ワッラガ・ゾーンにおける卸売商人からの筆者聞き取り。
- (30) 2002年2月の輸出商からの筆者聞き取り。
- (31) エチオピアのコーヒー年度は10月に始まり9月に終わる（NBE [1999]）。
- (32) カップ・テイスティングは1997年より始まった（2000年12月の検査センター

での筆者聞き取り)。

- (33) 2002年2月の時点でオークションで入手できる情報は、以下のとおりである。

(1) サンプル展示とともに提供される情報

非水洗コーヒー

①産地(ゾーン), ②オークション番号, ③記入日, ④品質(水分〈moisture〉, 外見〈appearance〉, におい〈odour〉, 欠点豆の混入率〈defect point〉, 粒子の大きさ〈screen〉), ⑤味(舌触り〈cleanliness〉, 特徴/味〈character/flavour〉), ⑥総合評価(アムハラ語からの訳)(class)

水洗コーヒー

①産地(ゾーン, ワレダ), ②オークション番号, ③記入日, ④コーヒーの種類(シダモ・コーヒーなど, 地名を冠したブランド名), ⑤品質(粒子の大きさ〈screen〉, 水分〈moisture〉, 外見〈appearance〉, におい〈odour〉), ⑥味(酸味〈acidity〉, コク〈body〉, 特徴/味〈character/flavour〉), ⑦総合評価(アムハラ語は非水洗コーヒーと同じ)(overall class)

(2) オークション開催時に開催者が発表する情報

①番号, ②ゾーン名, ③バッグ数(1バッグ=85kg), ④総合評価, ⑤卸売商人名。卸売商人名は, 2001年より公表されるようになった。

- (34) エチオピア・コーヒーでは, 非水洗式と水洗式の内訳は, 前者が80~85%, 後者が15~20%である(Coffee and Tea Authority [1999: 16])。品質と価格に優る水洗式加工は, 政府経営のプランテーションが中心であるうえ(Kuma [1993: 302]), 近年のコーヒー価格低迷もあって, 民間による水洗式加工はいまだ広くは浸透していない(2002年2月, 輸出商からの筆者聞き取り)。

- (35) 輸入国側の焙煎業者は, コーヒー豆のブレンドを行う際に精密な豆の配合を行う。そのため, エチオピア産のコーヒーは「モカ」と総称されているが, 輸入にあたって, 価格は銘柄名によって厳密に区別されている(2001年10月, 日本の焙煎業者からの聞き取り)。

- (36) 実際の生産地は, 東ワッラガ・ゾーンの役所所在地であるレケムテ(別名ネケムテ)ではなく, 西ワッラガ・ゾーンが中心である。

- (37) 2000年11月, 検査センターでの筆者聞き取り。

- (38) ただし, 有機栽培コーヒーについては, 量的に少ないこともあり, 試験的にオークションを経由せずに輸出されている(2002年10月29日, 輸出振興庁貿易情報チーム担当者からの筆者聞き取り)。

- (39) 中央政府への売り上げ税としての5%以外にも, 地方売り上げ税やスポーツ振興税などが卸売商人に課されている。

- (40) エチオピア国立銀行(NBE)ホームページ(<http://www.telecom.net.et/~nbe>)(2002年10月10日アクセス)。*Quarterly Bulletin Vol.15, 4th Quarter*および*Vol.16, 4th Quarter*のインターネット版。

- (41) たとえば2002年2月の時点では、輸出価格がこの金額を軒並み下回っていたため、コーヒー輸出商の輸出税の支払いは免除されていた。
- (42) 表1、図4からも分かるように、ディレ・ダワ・オークションでは、必ずしも国際価格に連動していない。これについては、今回調査できなかったため、今後の課題である。
- (43) データ上の問題としては、使用したデータが、日々の具体的な取引を表すものではなく、グレードの異なるコーヒーの取引価格の単純平均であることなどがある。
- (44) 「Sub: ブラジル, 991120, 旱魃によるコーヒーの不作」(農林水産省『海外農業情報』1999年11月20日) (<http://www.maff.go.jp/soshiki/keizai/kokusai/kikaku/main.htm> 2002年10月10日アクセス)。
- (45) 他国におけるオークションと垂直統合をめぐる議論としては、タンザニアのコーヒー流通の事例をとりあげたTemu [2001] と辻村 [2001] がある。これらの研究では、垂直統合によるオークションの形骸化が指摘されている。タンザニアのコーヒー流通は寡占状況にあり、流通を垂直統合した五つの企業がコーヒー市場の45%を占めており(1997年)、1997/98年にはオークションで取り扱われたコーヒーの半分以上が同じアクターによる売買であった(Temu [2001])。オークションでの落札価格が低く抑えられている状況から、寡占による談合の存在も指摘されている(Temu [2001], 辻村 [2001])。タンザニアのコーヒー流通は、寡占化によって、生産者からの買い取り価格が低く抑えられている状況にあるといえよう(辻村 [2001])。

しかし、エチオピアの場合は、タンザニアとは取り巻く環境が違うので、同様の状況に陥るとは考えにくい。まず、輸出货量および額がタンザニアよりもはるかに多く(輸出货量2.6倍、輸出額3.5倍、1997~99年)、市場を寡占できるような資本力のある輸出商はいないうえ、生産量が多いゆえに多数のオークション参加者を維持できると考えられる。生産地においても、非水洗加工用のコーヒー豆は、水洗加工が中心のタンザニア・コーヒーと比べて長期保存が可能のため、生産者側にも交渉力がある。また、生産量の半分が国内消費にまわるため、不当に輸出用の買い取り価格が安くなれば、代わりに国内市場で販売することができる。

- (46) アフリカ各国の事例については、World Bank [1994] を参照のこと。
- (47) 2002年2月、輸出商からの筆者聞き取り。
- (48) この場合、垂直統合を選択したアクターのオークション参加については、議論が必要となる。垂直統合している場合は、参加する意味はないうえに、取引費用と時間が増加するだけだからである。また、タンザニアの事例でTemu [2001] が指摘しているように、垂直統合したアクターがオークションに参加することで、その場で競争によって形成されるべき価格が、競争せずに自身の

コーヒー豆を再度買い取るという行為によって歪められるという問題も孕んでいる。

〔参考文献〕

〈日本語文献〉

- 上田元 [1998]「小農のコーヒー生産・加工技術—タンザニア北東部高地の事例から—」(原隆一編『風土・技術・文化—アジア諸民族の具体相を求めて—』未来社) 241～283ページ。
- 梶井厚志・松井彰彦 [2000]『ミクロ経済学：戦略的アプローチ』日本評論社。
- 黒羽怜一 [1990]「コーヒー」(平島成望・浜渦哲雄・朽木昭文編『一次産品入門』アジア経済研究所) 215～241ページ。
- 児玉由佳 [2001]「エチオピアの経済自由化政策と社会変容—皮流通の事例—」(高根務編『アフリカの政治経済変動と農村社会』アジア経済研究所) 279～306ページ。
- [2002]「コーヒー国際市場とアフリカにおけるコーヒー流通—エチオピア、タンザニア、ケニアの事例—」(高根務編『開発途上国の農産物流通—アフリカとアジアの経験—』アジア経済研究所) 243～277ページ。
- 全日本コーヒー協会 [1985]『創立5周年記念 世界のコーヒー生産国』全日本コーヒー協会。
- 辻村英之 [2000]「タンザニアにおけるコーヒー産業の構造調整と品質管理問題」(『金沢大学経済学部論集』第20巻第1号) 133～155ページ。
- [2001]「タンザニア産コーヒー豆の輸出構造と価格形成制度—日本への輸出を事例として—」(『フードシステム研究』第8巻第2号) 57～69ページ。
- [2002]「日本におけるタンザニア産コーヒー豆の輸入と消費の構造分析—価格形成制度と南北問題—」(『金沢大学経済学部論集』第22巻第2号) 237～261ページ。
- 東京穀物商品取引所 [2001]『世界の主なコーヒー生産国事情』東京穀物商品取引所。
- 西村直子 [2002]「深化するオークション理論」(『経済セミナー』No.569) 61～66ページ。
- 日本コーヒー文化学会 [2000]『コーヒーの事典』柴田書店。
- 農林中金総合研究所編 [2001]『国内農産物の先物取引—リスク管理手法としての可能性—』家の光協会。
- 和城秀俊 [1999]「アラビカコーヒーの先物取引」(千葉大学園芸学部園芸経済学科卒業論文)。

〈外国語文献〉

エチオピア人の人名は、基本的に本人の名前の次に父親の名前という構成になっている。混乱を避けるために、著者名もそのままの順番で表示した。

- Akiyama, Takamasa [2001] “Coffee Market Liberalization since 1990,” in Takamasa Akiyama et al. eds., *Commodity Market Reforms: Lessons of Two Decades*, Washington, D.C.: World Bank, pp.83-120.
- Befekadu Degefe and Tesfaye Tafesse [1990] “The Marketing and Pricing of Agricultural Products in Ethiopia,” in Siegfried Pausewang et al. eds., *Ethiopia: Rural Development Options*, London: Zed Books Ltd., pp.111-120.
- Berhane Mewa [2000] “Private Enterprise and Public Access to Information,” in Zenebework Tadesse ed., *Development and Public Access to Information in Ethiopia*, Addis Abeba: Forum for Social Studies, pp.38-47.
- Central Statistical Authority (CSA) [1991] *Retail Prices of Goods and Services in Selected Urban Centers: January 1990-June 1990 (Tir 1982-Sene 1982)*, Addis Ababa: CSA.
- [1993] *Retail Prices of Goods and Services in Selected Urban Centers: September 1990-June 1991 (Meskerem 1983-Sene 1983)*, Addis Ababa: CSA.
- [1994] *Average Retail Prices of Goods and Services in Selected Urban Centers: September 1991-July 1992 (Meskerem 1984-Hamle 1984)*, Addis Ababa: CSA.
- [1996a] *Report on Monthly and Annual Average Retail Prices of Goods and Services by Urban Centers: May 1993-August 1994 (Ginbot 1985-Nehase 1986)*, Addis Ababa: CSA.
- [1996b] *Report on Average Retail Prices of Goods and Services by Urban Centers: March 1995-August 1995 (Megabit 1987-Nehase 1987)*, Addis Ababa: CSA.
- [1996c] *Report on Average Retail Prices of Goods and Services by Urban Centers: September 1995-November 1995 (Meskerem 1988-Tahsas 1988)*, Addis Ababa: CSA.
- [1996d] *Report on Average Retail Prices of Goods and Services by Urban Centers: December 1995-February 1996 (Tahsas 1988-Yekatit 1988)*, Addis Ababa: CSA.
- [1996e] *Report on Average Retail Prices of Goods and Services in Selected Urban Centers: March 1996-May 1996 (Megabit 1988-Ginbot 1988)*, Addis Ababa: CSA.
- [1997a] *Report on Average Retail Prices of Goods and Services by Urban Center: September 1996-December 1996 (Meskerem 1989-Tahsas 1989)*, Addis Ababa: CSA.
- [1997b] *Report on Average Retail Prices of Goods and Services by Urban Center: January 1997-April 1997 (Tir 1989-Miazia 1989)*, Addis Ababa: CSA.

- [1998a] *Report on Average Retail Prices of Goods and Services by Urban Center: May 1997–August 1997 (Ginbot 1989–Nehase 1989)*, Addis Ababa: CSA.
- [1998b] *Report on Average Retail Prices of Goods and Services by Urban Center: September 1997–December 1997 (Meskerem 1990–Tahsas 1990)*, Addis Ababa: CSA.
- [1998c] *The 1994 Population and Housing Census of Ethiopia, Results at Country Level, Volume I Statistical Report*, Addis Ababa: CSA.
- [1999a] *Report on Average Retail Prices of Goods and Services by Urban Center: September 1998–December 1998 (Meskerem 1991–Tahsas 1991)*, Addis Ababa: CSA.
- [1999b] *Report on Average Retail Prices of Goods and Services by Urban Center: January 1999–April 1999 (Tir 1992–Miazia 1992)*, Addis Ababa: CSA.
- [1999c] *Report on the 1998 Welfare Monitoring Survey*, Addis Ababa: CSA.
- [1999d] *The 1994 Population and Housing Census of Ethiopia, Results at Country Level, Volume II Analytical Report*, Addis Ababa: CSA.
- [2000a] *Report on Monthly and Annual Average Retail Prices of Goods and Services by Urban Center: May 1999–August 1999 (Ginbot 1992–Nehase 1992)*, Addis Ababa: CSA.
- [2000b] *Report on Average Retail Prices of Goods and Services by Urban Center: September 1999–December 1999 (Meskerem 1992–Tahsas 1992)*, Addis Ababa: CSA.
- [2000c] *Report on Monthly Average Retail Prices of Goods and Services by Urban Center: November 2000–February 2000 (Hidar 1993–Yekatit 1993)*, Addis Ababa: CSA.
- [2001] *Ethiopia: Statistical Abstract 2000*, Addis Ababa: CSA.
- Coffee and Tea Authority [1999] *Ethiopia: Cradle of the Wonder Bean Coffee Arabica (Abissinica)*, Addis Ababa: Coffee and Tea Authority.
- [2000] *Coffee Bulletin*, No.22, August.
- Daloz, Jean-Pierre [1998] “Auction Markets,” in Richard Arena et al. eds., *Markets and Organization*, Berlin and others: Springer, pp.349–366.
- Economist Intelligence Unit [2002] *Country Profile 2002: Ethiopia*, London: Economist Intelligence Unit.
- Equar Desta [1999] “The Impact of Devaluation on Ethiopian External Trade,” *Birritu*, No.67, May–June, pp.5–14.
- Ethiopia Chamber of Commerce [1998] *Exporters’ Guide–Ethiopia*, Addis Ababa: Shawel Consult International.
- Kuma Tirfe [1994] “Reform in Trade and Service Sectors,” in Abdulhamid Bedri

- Kello ed., *Privatisation and Public Enterprise Reform in Ethiopia*, Addis Ababa: Ethiopian Economic Association, pp.297-315.
- Love, Roy [2000] “Formalisation of the Ethiopia Coffee Market 1941-73,” mimeo.
- [2001] “The Ethiopian Coffee Filiere & Its Institutions: cui bono?”, *Review of African Political Economy*, No.88, pp.255-240.
- National Bank of Ethiopia (NBE) [1998] *Quarterly Bulletin, Fiscal Year Series Vol.13, No.1, First Quarter 1997/98*.
- [1999] *Quarterly Bulletin, Fiscal Year Series Vol.14, No.4, Fourth Quarter 1998/99*.
- Temu, Anna A. et al. [2001] “Market Liberalisation, Vertical integration and Price Behaviour in Tanzania’s Coffee Auction,” *Development Policy Review*, Vol.19, No.2, pp.205-222.
- World Bank [1994] *Adjustment in Africa:Reforms, Results and the Road Ahead*, Washington, D. C.: World Bank.